

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立峰山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
<p>“笑顔でつながろう。心とこころ!!” ～はなそう・つたえよう・みんなのおもい～</p> <p>(1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。</p> <p>(2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。</p> <p>(3)身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。</p>		<p>前年度の成果と課題</p> <p>○保護者と連携を持ちながら、園児自らが感染症予防に進んで取り組んでいけるよう安心・安全な生活や活動をすることができた。</p> <p>○様々な実体験や感動体験を通して、学びに向かう姿勢や豊かな言葉力に繋げることができた。</p> <p>○園児の主体的な活動を認め、言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋がっていくことができた。</p> <p>△開かれた園として地域への情報発信が、ホームページのみで十分とは言えなかった。</p> <p>△職員全員での研修時間の確保が難しく、資質向上に努めることができなかった。</p>		<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <p>・園児自らが健康や生活の仕方に関心を持ち、リズムある生活が習慣になるようにする。</p> <p>・様々な体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。</p> <p>・園児の主体的に取り組み姿勢を認めながら、他者と関わる力を育てる。</p> <p>・保護者の子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</p> <p>・地域社会に開かれた園として、情報発信に努める。</p> <p>・滑らかな接続ができるように、峰山学園(保幼小中一貫教育)の連携を深める。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	<p>『峰山学園』の連携自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成</p> <p>・意欲を持って学ぼうとする力の育成</p> <p>・コミュニケーション能力の育成と適切な人間関係の育成</p> <p>・園小の円滑な育成</p>	<p>・峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態を交流する中で共通の目標を持ち、ことば力・聞く力・話す力を育てる教育・保育を進める。</p> <p>・中学校卒業までを見通した、一貫した指導を共有する。</p> <p>・小1スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの検証を行いながら実践を重ねる。</p> <p>・私立園との交流会や峰山学園担任会を通して、教育・保育内容の共通理解を深める。</p>	<p>○経営会議の中で各学校や他園の状況を聞くことで、自園で進めている教育・保育の成果や課題を明確にすることができた。言葉の力の大切さ、やり遂げる満足感、自己肯定感を持つて活動など、職員間で話し合いを深め、実践へとつながることができた。</p> <p>○参観や担任会など、限られた時間ではあったが、園児や児童、生徒の状況を知り、縦の繋がりとして学ぶことができた。教育プログラムでは公開保育を行い、自園においての教育・保育を改めて振り返る良い機会となり、学びと実践につなげることができた。</p> <p>○私立園とは学園や市の担任会を通して、互いの情報交流や保育内容を学び合うことで実践に活かすことができた。</p> <p>△感染症拡大防止により様々な研修や交流が中止となり、Zoomや書類のみの報告となった。他校の活動や取り組みなど、直接、意見を聞くことができず、学びを深める所まで行かなかった。</p>		

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 ・基本的な生活習慣や態度を育てる。 ・自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。 ・日常的に園内外での安心・安全に過ごそうとする姿勢・態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の自然の中で発見や感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を持つ。 ・あいさつデューを設定し、挨拶をすることの大切さを知らせる。 ・登園時間や園児の実態を把握し、個々に合った助言や指導を行う。 ・生活点検表などを活用し、生活習慣を整える。 ・活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持つ。 ・散歩・交通教室などで交通ルール・集団でのルールをもとに考えたり知らせたりする。また、様々な場面で交通安全や危機管理について学び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な体験が学びに繋がりがり、感動体験を通して、学びに向かう力や豊かな言葉の力に繋げることができた。 ○感染拡大防止による生活様式に子ども達も順応しながら進んで感染防止に努め、安全で安心した生活を送ることができた。 ○子ども達の主体的な活動を大切にし、思いや考えを言葉で伝えたり聞いたりしながら協同活動を進めることで達成感や満足感を味わい、自己肯定感につながっている。 △毎月1日はあいさつデューとしたことで、人との関わりや言葉の大切さを意識する機会にはなったようだが、実際に進んで挨拶をする姿にはつながらなかった。 △交通ルールモデル園となることで、5歳児を中心に合図の理解はできようようになったが、散歩に行く機会があまりもたず、体験を通しての安全指導が不十分であった。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての不安に寄り添い安心して子育てができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いに寄り添いながら相談がしやすい雰囲気をつくり丁寧に対応をする。 ・園児の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に行い、個々に合った支援や対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任からの状況報告や連絡・相談を園全体で連携し、適切に対応することができた。 △コロナ感染予防での緊急事態宣言やまん延防止対策のため、園を開放する場を制限したり保護者同士が交流したりする機会があまりもてなかった。
研修 (教員の資 質向上・人 権教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実を図り、保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画により保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 (公開保育・担任会・事例研修) ・園内研修の内容を工夫し、研修の充実を図る。 (職員会議を利用する等、時間の確保に努める。) 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染拡大防止の観点から研修等の中止やWeb研修となることが多かったが、正職員・会計年度職員の積極的な参加ができた。園内でDVD視聴や紙面での意見交流、教育プログラムでの公開保育や担任会での研修を活かし、園での教育・保育の振り返りや学びにつなげることができた。 △日々の教育・保育活動の中で、全職員で園内研修などをする時間や場を作りことが難しいため、内容や状況に合わせてグループ会議を進めてきたが、そのための会議時間の組み方や意見をまとめていくのに時間がかかった。
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・峰山学園の一員として子ども園の情報を経営会議の中で積極的に伝え、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら連携を深めていく。 ・PDCAサイクルに基づいた質の高い教育・保育の実践に努めていく。 ・思いや考えを出し合いながら、身近な人と関わり、実体験や感動体験を大切にし、生活や活動を進めていく。 ・開かれた子ども園として、日々の活動や行事の実施の仕方など工夫し、保護者や地域の方と共に教育・保育や活動を進めていく。 ・安全教育や危機管理について、園児と共に学びながら、安心安全な園づくりに努めていく。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立大宮こども園]

こども園	こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康で安全に活動する子ども 身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども 人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども 素直で思いやりがあり積極的に関わり合う子ども 	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ことばの力」「思いやり」「つながる力」を高め、生き生きを育成する。 幼児教育から小学校教育への円滑な接続のために、園小による教育活動や研修を充実させる。 大宮学園「家庭の心得」の理解を得て、各家庭での取組を進める。 	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を介し、人の心を豊かに感じる場面を大切にす る挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流に 取り組む。 年間を通して、小1プロブレム解消に向けた園小連 携活動、園小の円滑な接続を図るためのアプローチ プログラムに取り組む。 具体的な課題を共有するために、保護者会と連携、 園日より、懇談会、子育て支援等に取り組む。 	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> アプローチプログラム改善、園小連携活動、共同研修を 進め、園小の効果的接続を充実させる。 日常教育・保育、異年齢交流、体験活動の充実をさせ、 生き生きと遊ぶ力、言葉で伝え合う力、互いに思いやり 協同する力を育成する。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に係る理論及び 実践についての研修を充実させ、指導力向上を図る。 家庭・地域との連携を密にし、教育・保育活動や子育て 支援の充実を図る。
<p>評価項目 保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ことばの力」「思いやり」「つながる力」を高め、生き生きを育成する。 幼児教育から小学校教育への円滑な接続のために、園小による教育活動や研修を充実させる。 大宮学園「家庭の心得」の理解を得て、各家庭での取組を進める。 	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を介し、人の心を豊かに感じる場面を大切にす る挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流に 取り組む。 年間を通して、小1プロブレム解消に向けた園小連 携活動、園小の円滑な接続を図るためのアプローチ プログラムに取り組む。 具体的な課題を共有するために、保護者会と連携、 園日より、懇談会、子育て支援等に取り組む。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流で、言葉を介して互いに関わり合う場を充実させることにより、互いを思いやる会話が生まれ、友達を大切に关わる姿に広がりが見られるようになった。 コロナ感染防止を図りながら小1プロブレム解消のための園小連携活動、大宮学園のアプローチプログラムに基づいた教育活動を進め、小学校入学に向けての心構えを育てることができた。 年間を通して、保護者会連携、園日より、懇談会、子育て相談、連絡ノート等を活用し、園生活の様子や子育て状況を共有することにより、各家庭への子育て支援を進めるとともに、共通課題である生活リズムに対する意識を高めることができた。
<p>教育課程</p>	<p>健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p> <p>身近な環境や自然に自ら関わり、事象に関心を持ち、発見や考えたことを生活に取り入れようとする力を育成する。</p>	<p>体を大切にすることに関心を持ち、方法を身に付けるための健康・安全教育、食育に取り組む。</p> <p>発見や感動を体験させるため、園内外の自然や自然物との関わる活動に取り組む。</p> <p>室内外の遊具や用具を使い、友達と関わったり体を動かしたりすることを楽しめるようにする。</p>	<p>生活習慣や規律の習得では、日々の健康チェックにより自己の体調を知ったり、食育活動では、栄養士から体の働き・栄養などを学んだり、栽培活動を通して主体的な行動が見られるなど、健康な体について意識するようになってきた。</p> <p>同年齢・異年齢で泥んこ遊び、自然物制作、色水遊び、サーキット、築山すべり等に取り組み、体を動かすことを楽しみ、発見や感動を豊かに言葉や体で表現し、友達と関わりながら夢中になって活動を進めていく子どもの姿が見られるようになった。</p>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力、思いやる心、豊かな人間関係を結ぶ力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力を高めていくために、表現を楽しむ活動、思を伝え合う活動、話し合い活動に取り組む。 ・楽しさや嬉しさ、葛藤・折り合うことを経験するための、集団遊びや異年齢交流に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会での創作劇やお話づくりなどで表現活動を楽しみ、保育者・友達と思いを伝え話し合う中で、言葉を紹介して意思の疎通を図ることができた。 子ども達は、日を追うごとに自分らしい言葉で思いを伝え、話し合い遊びの輪が広がってきている。 ○感情的な行き違いや欲求の対立に丁寧に関わり、振り返りや話し合いを充実させることにより、互いに思いを受け止めたり折り合いを付けたりしながら解決策を見つけていくようとするようになった。 △コロナ感染防止のため、活動や行事を中止・延期・縮小せざるを得ず、全園児で行う予定であった運動会・発表会など学年別で行うなど、異年齢交流の場が少なかった。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができきょうに家庭教育支援や子育て支援を充実する。 ・社会環境や家庭環境の変化を理解し、対応しながら保育を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育への支援を充実させるため、懇談会・たよりや子育て相談・ドキュメンテーション等に取り組む。 ・発達特性や成長に応じた、保護者に寄り添った子育て支援に取り組む。 ・子育て支援センターや一時預かり保育・預かり保育を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○懇談会・たより・ドキュメンテーション等、園から丁寧な発信を行うことで、「大宮こども園」の教育・保育への理解が広がり、家庭・地域との連携を充実させることができた。 ○子育て相談を丁寧に進めることにより、個に応じた子育て支援を進めることができた。 ○社会・家庭環境の変化への対応を図るための情報発信に努め、子育て支援施策への理解を広げることができた。 △保護者との直接会話の機会の減少により、日々のタイムリーな子育て支援が十分には実施できなかつた。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実する。 ・地域の環境や人材を活用し、体験活動を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園からの丁寧な発信や連携の工夫を行う。(園だより・クフラスだより・ホームページ・懇談会・参観・電話連絡等) ・保護者会・活動支援ボランティアの協力を得て、園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ対応を図りながら、園と家庭、保護者同士の連携の方法を工夫し、保護者会の運営や活動を充実させるための支援を行い、子ども達への教育効果、家庭の教育力を高めていくことができた。 △コロナ対応により、地域連携では、田んぼでの泥の感触遊び、地域の施設では、老人とのふれあい交流などを実施することができなかつた。また、園外活動や地域ボランティアの活用による絵本の読み聞かせなどを縮小せざるを得なかつた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉を紹介した関わり合う教育活動を高める ○園の円滑な接続の実効性を高める ○心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもを育成するための日常の教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る ○コロナ対応により縮小した園外教育活動、小中一貫教育活動、保護者連携活動、地域連携活動、園外教育活動の充実を図る。 ○幼連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力の向上、教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○指導方法に係る共同研修の充実を図る。 ○体験活動・体感活動の充実を図る。 ○保護者連携活動、子育て支援等、教育活動、子育て支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。 ○指導方法に係る共同研修の充実を図る。 ○体験活動・体感活動の充実を図る。 ○保護者連携活動、子育て支援等、教育活動、子育て支援の充実を図る。

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 (京丹後市立網野こども園)

評価項目	重点目標	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	・「網野学園」の教育目標をもとに、基本方針や取組内容を理解しながら教育・保育を進める。(確かな学力の育成・規範意識の醸成・豊かな人間性等) ・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を強化する。	前年度の成果と課題 ・経営会議で学園としての方向性や課題等、共通理解したことを職員に報告したり、園で話し合ったりすることはできたが、全職員で「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を検証するままでは至らなかった。 ・コロナ対策を行いつつ、同学年、異年齢での関わりやつながりがもてる活動を進めてきたことで、園児の中には、主体的に生活や活動を進めようとする姿が見られた。 ・全クラス懇話会や個人面談等、日と時間を考慮して開催したところ、多くの参加があった。園や家庭での様子を伝え合ったり、保護者の悩みを共有し話し合えたりした。 ・家庭との連携を密にしなが生活習慣の大切さを伝えたりはきたものの、登園が遅くなるまた、朝食を摂らない等の現状があり、引き続きの啓発が必要である。 ・園内研修の機会は少なかつたが、OJTを大切にすることを話しながらの保育の悩みや要支援児への関わり方等話し合い、資質向上に努めた。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ・網野学園の課題や取組み等を園内で共通理解するとともに、学園独自のアプローチプログラムの検証と今年度作成予定の長期モデルプランの検討をする。 ・コロナ対策を講じながら、活動や行事の在り方を全職員で検討するとともに、園児の主体性を重視した教育・保育を進める。 ・園児の成長を願い、保護者の思いや悩みを共有しながら子育て支援を行う。 ・健康的な生活習慣の自立と園内外での安全指導や安全対策に万全を尽くす。 ・園児理解を基盤とした教育・保育を目指す上で、職員同志の同僚性やOJTの充実を図る。
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	重点目標	具体的方策 ・経営計画を全職員で読み取り、園での遊びや活動の中にとり組むように入力していくのかを職員間で検討し、3つの資質能力が育成されるよう実践していく。 ・アプローチプログラム等を活用して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を検証する場を設定するとともに、園児と児童の交流や教育内容の共有化に向けた取組みを進める。	成果と課題 (自己評価) ○研究主題やその捉え方、仮説等に基づいて実践したり、教育・保育計画を取りながら、取組内容の共通理解を深めたりする等、基本方針をベースに教育・保育を進めることができた。 △出前講座や教育フォーラムの資料をもとに園内研修をしたが、3つの資質能力を取り立てて実践につなげることはできなかった。 ○長期モデルプランを作成するにあたり、園と小学校との教育の具体的な内容を改めて確認する中で、共通理解をすることができた。 ○コロナ禍であったが、学習発表会のリハーサル見学は、5歳児にとつて自園の発表会に対する刺激となった。

<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい園生活を過ごせるようにする。 ・主体的な活動、対話的な活動をくり広げられるような環境づくりをする。 ・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中の学びを見据えながら、集団の中で一人一人が生き生きと園生活を過ごすことができるような環境を整え、実践する。(園生活の充実) ・生活習慣の確立を基盤に、安心安定した園生活になるよう園児と保育教諭等の信頼関係を図る。(心の居場所づくり) ・園児が主体的に協同的に協同的な遊びを展開したり、知的好奇心を揺り動かしたりしながら遊ぶことができるような環境の工夫や援助をする。(遊びの充実) ・友達よさや友達と一緒に過ごす心地よさを感じられるような取り組みをする。(同年齢・異年齢児との関わり、言葉でのやりとり等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児の姿をベースに、遊びや環境構成の在り方の重要性を職員全体で確認し、学びを実践につなげることができた。 ○網野学園の『家庭学習頑張り週間』を機に、生活習慣づくりと読み聞かせの大切さが保護者意識につながり、効果的であった。 ○運動会や発表会に向かって取り組むプロセスの中で、日々の遊びを生かすことができた。常に遊びの重要性を感じ、つなげていった成果である。 △感染対策を講じながら、できる限り異年齢の関わりを意識して来たが、3学期後半はコロナ感染を避けるため、年齢ごとの生活を余儀なくされた。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、「共育で」を目指す。 ・未就園の親子の保育体験を行い、子育ての安心安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に園児の様子を知らせ、成長や課題を共有し、子育てに関することを共に考える場をつくる。(園だより、クラスだより、懇談会等) ・日頃から保護者の話や相談に耳を傾け、一緒に課題解決に向けて進めていく。 ・「園開放日」や子育て支援センターでの親子の情報を基に、保護者同士が交流できる場を設定し、お互いが楽しんで悩みを交流したりできるような雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス懇談会や参観日、運動会や発表会等、感染対策を講じながら実施することができた。園児の様子を実際に参観することで、保護者は園生活に対する安心感をもち、園児の確かな成長を感じていったようである。 △来園者を温かく迎えることで、職員との話のしやすさを感じられたようだったが、コロナ禍で、園開放の参加は少なく、保護者同士の交流はできなかつた。
<p>(A)研修 (教員の資 質向上・人 権教育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修やチーム研修等を通して、全職員の資質向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、京丹後市の指導の重点、網野こども園教育・保育計画等を読み解き、教育保育の重要事項を共通理解する。 ・網野こども園の教育・保育について全職員を対象に園内研修を実施し、教育や保育の在り方について発信する。 ・園全体の教育・保育の質が向上するように、同僚性、OJT、ToDoリストを最大限に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の検討や反省、毎日の朝礼時等に、園での喫緊的課題や今後の対策等を管理職の立場から職員に伝えてきた。園内研修をする機会は少なかつたが、それに準ずる成果はあつたと感じる。 △要支援児への支援策や遊びの捉え方、環境構成等、様々なことについて日々職員間でやり取りしやすい雰囲気をつくってきた。しかし、保育教諭によって感覚や意識の差があり、OJTの成果が積み上がりにくかつた。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度作成した網野学園長期モデルプランをもとに、再度、既存のアプリプログラムを見直し、3つの資質能力を視点とした実践研究をする。 ・また、小学校教育との具体的で明確なつながりを理解することで、教育保育の質の向上を図る。 ・今年度のコロナ感染拡大から見出した取組みを来年度の年間行事計画等に反映させ、見直しをもった教育保育活動につなげる。 ・子育て支援の充実を図るため、要支援児の主訴を踏まえた適切な個別支援をしたり、心から保護者に寄り添ったりして園児や保護者のウェルビーイングにつながるよう努める。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立丹後こども園]

評価項目	重点目標	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園の教育目標を踏まえ、学園の経営方針に基づき研究や取組を進める。 ・保幼小接続部会を通して、小学校との連携を密にスムーズな接続を図る。 	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フイジカルデイズタンスを考えながら園生活を過ごした。生活の仕方や活動内容は、その都度、職員間で精査できた。 ○園児が興味をもって体を使った遊びが出来るよう環境を整え、それぞれの年齢で活動を進めるところができた。 ○コロナ禍で生活様式が一遍する中、園児が安心安定の中で生活できることを最重要と考え、丁寧な関わりと園児の話を十分聞き、気持ちに寄り添うことに心掛けた。 △コロナウイルス感染症予防のため、各学年での活動が中心となり異年齢活動を進めることが出来なかった。 <p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園保幼小中一貫教育に関する会議や公開保育等に積極的に参加し、学園の教育目標や各校の取組について理解を深める。 ・保幼小連絡会の中で園児の情報を伝え、小学校教育につなげるための連絡シートをよりよいものにするため、見直しや改善を行う。 ・アプローチプログラムやスタタートカリキュラム等を活用して、教育・保育内容を検証しながら取組を進める。 	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭との信頼関係を基に、園児が主体的に人、もの、自然に関わり、伸び伸びと園生活を送れるような環境づくりに努める。 ・様々な活動や体験を通して、体を動かす楽しさを味わい、主体的に取り組みようとする意欲を育む。また、その中で自分も友達も大切に教育・保育を実践する。 ・丹後学園内で校種間連携を深め、連続した園児の発達や学びとなるようにする。 ・地域の自然に接したり、また、人との交流を通して豊かな心を育む。 ・幼児期に育みたい資質・能力を踏まえ、園児一人一人の成長を見据えた教育・保育を進める。 <p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> △新型コロナウイルスの影響で、各校園所の行事等の取組の制限から参観する機会が少なく、系統的な指導を見ることができなかつた。 ○丹後学園内で発行された学園ニュースを職員が読むことで各校の様子や授業の取組内容を職員が読むことを知ることができよかつた。 △新型コロナウイルス感染症予防の為、保幼小接続部会を開くことができず、連絡シートの改善には至らなかつた。 ○入学して間もない1年生の授業参観を通して、1年生の様子を共有できてよかつた。また、丹後学園で検討してきたスタートカリキュラムを活用し、こども園で育んできた学びが小学校に繋がっていることが良く分かつた。

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安定の中で、園生活が送れるように関わる。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえる環境づくりをする。 ・異年齢活動を通して、いたわりの気持ちや憧れの気持ちを育む。 ・自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉で表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児や保護者に丁寧な挨拶や対応を行い、居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。 ・体操、マラソン、サーキット遊び等友達と一緒に体を動かした遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。 ・栽培活動、チーム活動、クッキング、散歩等で異年齢交流を行い、憧れやいたわりの気持ち、心の葛藤を経験させる。 ・園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたり、相手を言葉で表現することを楽しくめるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝、職員が玄関で登園してきた園児とその保護者を明るく迎えるようにしてきてきたことで、登園時の姿から体調や心情を知ることができ、より丁寧に関われたことが園児の安心安定した生活につながった。 ○健康な体づくりを行うため、気候や発達に合わせた活動を行うことができた。異年齢児での活動はコロナ感染対策を考えると出来ないことが多かったが、『見て・真似て・やってみよう』とする憧れの気持ちをもたせることができた。 ○いろいろな人やものに関わる中で、自分の気持ちや考えを伝ええる経験や自分の気持ちに折り合いをつける経験を積み重ねてきたことで、思いやりの気持ちを育むことができた。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・園児や家庭にとって効果的な支援を行う。 ・未就園児の子育ての安定を図り、不安を解消する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が、園児の成長に気付き、子育ての喜びを感じられるように園だよりやクラスだよりの発行と日々の連絡や相談を丁寧に行う。 ・子育てに悩みや不安の相談、疲れを抱えている保護者へのリフレッシュ支援を行う。(預かり保育、一時預かり保育制度の活用) ・子育ての楽しさや難しさ等が相談できるように、未就園児の親子が交流できる時間や場を設定する。(地域子育て支援センター・子ども園開放等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスだよりには園児の様子を写真で載せ、カラー印刷で発行した。カラー刷りは子どもたちの様子や表情がよくわかり保護者に好評だった。 ○一時預かり保育や預かり保育利用が多く、子育て負担の軽減につながる支援が出来る。 ○子育て支援センターの利用者が多く、未就園児の親子の悪い場(心地よい場)を提供することができた。 △コロナ禍のため、園児と保護者・未就園児の交流をもつことができなかった。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な体に必要な生活習慣や態度を身に付けるため、家庭と連携をする。 ・地域のよさを活かした教育保育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の園児の生活環境を把握し、家庭や学校等と連携を図りながら、個々に応じた指導を行う。 ・園児が健康で安全な生活が送れるように家庭に協力を求め進める。(健康チェック、生活点検、感染症予防対策等) ・丹後地域のいろいろな場所に出掛け、自然に触れながら地域の人々の話を聞き、行事の伝承や活動に興味や関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の協力で年間を通して健康チェック(体温測定)を行うことができた。日々の体調の変化にも気付くことができ、様々な感染症の流行も防ぐことができた。 ○幼児は生活点検表を付けることで、生活習慣を身に付けてきた。園児の生活状況を意識づけを行うことができた。また、園児の生活状況を知らずして個別に助言や指導をすることができた。 ○散歩や遠足で、地域の様子や神社の伝説を聞いたり、御参りの仕方などを教わったりして地域のことを知るきっかけになった。 △コロナ禍での緊急事態宣言やまん延防止のため、いろいろな人と交流する活動ができなかった。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に遊ぶ園児を育成する。 ・いろいろな人やものに関わる中でコミュニケーション能力の育成を図る。 ・様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 (京丹後市立弥栄こども園)

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>「みんな だいすき つながる えがお」 ～やってみよう！もっとやりたい！ 夢中になって遊ぶこどもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなおもちゃを動かして、心豊かな子どもを育てる。 ・生活に必要な習慣・態度を身につけ、健康な心と体を育てる。 ・身近な人や地域とのかかわりを持つ力を育てる。 	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行事や遊びを見直すことで、子ども達が遊びを考え、主体的に活動する姿が見られるようになった。 ○子どもたちの日々の活動や遊びの様子を、クラス懇談会、毎月のクラス便り、行事の掲示等で知らせることができた。 △小学校との連携では、それぞれのカリキュラムを通してお互いが学びあえる研修まで進めることができなかった。 △園生活や遊びが十分に楽しめるように9時までの登園を伝えているが、家庭の生活リズムの捉えの違いから登園が遅く、遊びに入れない子どももいた。 	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけ、見通しをもった生活を送ることができるようになる。 ・園児自らが周囲の環境に関わり、活動を展開する充実感を味わいながら発達に必要な経験を積み重ねるための環境構成や援助を行う。 ・いろいろな人との関係を築くために、あいさつや言葉の大切さについて理解させる。 ・園の情報を積極的に発信し、家庭・学校及び関係機関、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。
<p>評価項目 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>重点目標</p> <p>『弥栄学園』の連携 故郷を愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く子どもたちの児童生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分からやってみようという意欲をもって取り組む子ども(知) ○思いやりのある子ども(徳) ○進んで体を鍛える子ども(体) 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学園経営会議や電話などで、言葉(話し方・伝え方)や不登校について、情報のやり取りを行い、個に合った支援を進めていくことができた。 ○合同研修(授業研究会)に参加し、共に授業の進め方について系統的な視点をもち、教育・保育を進められるようになり話し合いを持つことができた。 △一年生との遊びの交流はできたが、コロナ感染予防(緊急事態宣言・まん延防止等)のため予定していた教職員への公開保育や生活科の授業体験ができなかった。 ○保幼小合同会議でアプローチプログラムの検証を行うことと、こども園の教育・保育を知ってもらうことができた。
<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の生活実態や発達に応じて、必要な生活や活動の習慣を身に付けるための環境構成や支援方法を考え、実践を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動やコロナ感染予防のため、生活点検表を毎日付け、提出することと、園児自身が健康であることを確認ができたことと、その行動を保育者に認めてもらったりすることと、生活習慣が身に付き、自信となっている園児が増えた。

教育課程	<p>○園児自らが主体的に生活や遊びができるようになる。</p> <p>○他の園児と関わる機会を大切に、人と関わる楽しさを体験させる。</p> <p>○安心安定した中で、感性や表現力を豊かにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の自然の中で、五感が感じられるような経験ができる機会をもち、感動を言葉や行動にできるようにする。 ・園児の行動やつぶやきに耳を傾け、友達との遊びにつながるように職員間での情報交換や環境づくりを行う。 ・感じたことや考えたことを伝えることができるように、絵本や物語等の読み聞かせから、表現の仕方等を知らせる。 	<p>○保育教諭が園児の発想を丁寧に受け止め、共に遊び、面白さを伝えながら、遊びを工夫していくことで、園児はイメージを膨らませ、遊びを発展させ楽しむことができるようになってきた。</p> <p>○園児の現状に合わせ、一つ一つの行事を全職員で見直し確認していくことで、園児・職員の動きに変化が見られ、自然と異年齢児と関わる姿が見られ、目的を持って遊ぶようになってきた。</p> <p>△日々の活動の振り返りでは、捉え方の不十分さから園児の遊びが広がらないこともあった。</p> <p>△情緒の安定を図るため、絵本や物語等の読み聞かせや個々への関わりを持ってきてきたが落ち着いて聞けない園児もいる。</p>
子育て支援	<p>○家庭での子育ての不安に寄り添い、楽しく子育てができるように支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを楽しむことができるように、保護者の話や時間を設ける。(登降園時、懇談会、園開放等) ・親子の会話や触れ合いの時間をもてるように、絵本の貸し出しを行う。 ・未就園児の保護者が、育児を楽しんで行えるよう相談に乗ったり、遊んだりできるよう地域子育て支援センターや園を開放する。 	<p>○コロナ感染予防の為、日々の様子を伝える時間が短くなったが、毎月のクラス便りや個人懇談会などで園児の活動の様子を伝えることができた。</p> <p>○絵本の貸し出しを毎週行うことで、家庭での親子の触れ合いのきっかけとなり、返却時には園児の嬉しそうな表情や言葉を聞くことができた。</p> <p>○支援センターの登録者が毎月増えてきている。気候に相談できる雰囲気を作ってきたことで利用者同士の会話も増え、楽しむ姿を見せている。</p>
家庭・地域との連携	<p>○保護者との連絡・報告を適切に行い、協力関係を築く。</p> <p>○地域の伝統的な生活や行事を知り、いろいろな経験させられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の方針や活動の様子を伝えるために、園だよりやホームページを充実させる。 ・祖父母や地域の社会人講師を迎え、経験したことを伝えてもらったり、触れ合ったりして経験を豊かにする。 	<p>○園だよりやクラスだより、ホームページなどに活動の様子を写真やエピソードを添え、具体的に伝えることができた。</p> <p>○散歩に出かけた際には、地域の人と挨拶を交わし、田畑のことを質問したり、話をしたことをきっかけに園の栽培活動の指導に来てもらったり、国営農地での芋ほり、また、琴と絵本の読み聞かせなどで表現の仕方を知り、様々な人と触れ合ったり体験したりすることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○公開保育などを通して子ども園の教育・保育を伝え、つながりのある教育活動を充実させながら弥栄学園の目指す子ども像の育成に努める。</p> <p>○地域に根ざした教育・保育が充実していくように、コロナ感染予防対策を講じながら地域の人とふれあう機会を増やし、次への活動へつなげる。</p> <p>○幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に基づき、一人一人の育ちや発達に合わせた援助・支援の充実・環境構成をしていく。</p>		

令和3年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元気 勇氣 笑顔 つながれ仲間》 ～いっぱい遊ぼう！一緒に遊ぼう！～ 友達っていいな～</p> <ol style="list-style-type: none"> 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にすることを育てる。 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。 	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○久美浜学園の会議を通して子どもの実態を交流することができ、指導や支援の仕方について共通理解することができた。また、保幼合同研修会として初任者教諭の公開保育を行い、質の向上に引き続き校種間の連携を大切にしていきたい。</p> <p>○全園児が園周辺の自然環境を取り入れた遊びや活動を進めることができた。</p> <p>△全身を使った遊びの環境を活用し、落ち着いて話を聞いたり、集中して取り組んだりする園児を育成する。</p> <p>○職員が温かい雰囲気や保護者を受け入れるように努めてきたことで、信頼関係が構築されていった。</p> <p>△安心安全な教育・保育を進めるため、状況に応じて危機を回避する対策を見直す。</p> <p>△コロナ禍での保護者や地域を巻き込んだ体験活動を模索していく。</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が安心して自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感を育む。 身近な自然を活用した遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境を工夫し、豊かな感性や表現力を養う。 友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりしながら、豊かな人間性の基礎を培う。 地域の人や自然、文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。 安心安全な環境のもと教育・保育の向上に努める。
<p>評価項目 保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 久美浜学園の教育目標、目指す子ども像に向けて、基本方針を理解して取組を進める。 保育所、園、小学校と連携し、相互理解を深めながら一貫性・連続性のある指導に努める。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○久美浜学園年度末全大会において、他校種の先生方へ園所の乳幼児教育・保育について伝え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や乳幼児教育・保育の連続性・内容や指導への理解につなげることができた。 ○町内3園所で行った公開保育が、自園の保育を振り返り、久美浜学園の指導の重点や取組を職員間で共通理解する機会となった。 △5歳児が小学校入学に向け、コロナ禍でも学校生活への期待がもてるような工夫や交流の場をもつことができなかった。
	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に小中一貫教育に関する会議や研修に参加し、久美浜学園の指導の重点や取組の柱とする内容を全職員で共通理解する。 他園所や小学校と合同研修の場(公開校、交流会、研究会等)を設けて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、一貫性・連続性のある指導へつなげる。 コロナ禍でも園児と児童の交流が深まるよう学校行事(運動会、学習発表会、マラソン大会など)の交流の仕方を、リモートや手紙のやり取り、写真の活用等工夫して行っていく。 	

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい園生活を繰り広げる。 ・主体的、協同的に活動する力を育てる。 ・人とつながりあうことの喜びを味わい、人と関わる力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児一人一人の生活背景を理解し、肯定的に園児の姿を受け止め、自信をもって自己を発揮できるようにする。 ・「子ども園で～がしたい」「友達と～が遊びたい」と思えるような居心地がよく、夢中になって遊ぶことができる環境づくりを行う。 ・身近な自然や自然物を取り込んだでの感動体験を増やし、考えながら遊ぶ機会を取り入れて活動する。 ・コロナ禍での異年齢児や地域との交流を行い、遊びや体験を通して人を思いやる気持ちや人と関わる楽しさを感じられるように進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者が園児一人一人のよさと課題に寄り添い受け止めることで、丁寧な支援を行うことができた。また、友達よさを認め合う時間（振り返り）を設けたことで、自信をもって伸び伸びと自己発揮できる姿へとつながった。 △職員間で遊びを深められる環境について学び合う時間がしつかりもてなされたため、夢中になって遊ぶ環境づくりが十分に整えられなかった。 ○地域や保護者、社会人講師の支援を受け、自然環境を生かした保育を進め、色々な感動体験を味わう機会をもつことができた。 ○コロナ禍でも、異年齢の交流を意識した生活や遊びを進めてきたことで、自然な形で友達を思いやる姿を見せるようになってきた。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して子育てができるように支援する。 ・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「子育て」を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が話しやすい雰囲気を感じ、何気ない話や相談に耳を傾ける。 ・未就園児や在園児の親子が楽しい雰囲気の中で交流できる場を設定し、子育ての楽しさを伝える。 ・保護者に園児の様子を伝えるため、参観やたより、ホームページ、ドキュメンテーション等で信頼される園づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○送迎時や参観などの機会を捉え、丁寧にコミュニケーションをとってきたことにより、少しずつ保護者と信頼関係を育むことができた。 △支援センターでは、コロナ禍での配慮のもと親子で遊ぶことができたが、園内での親子交流など子育てを共有できる場はもつことができなかった。 ○ホームページや写真の掲示・面談などをこまめに行うことで、保護者と子どもの育ちや園での様子を共有することができた。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や感染症対策を徹底し、発生を防止する。 ・全職員が危機管理意識をもち安心・安全な環境と保育を努める。 ・園児自らが危機回避するための安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が危機管理意識をもち、日々丁寧に園児の様子を観察し、報告・連絡・相談等を行い、保育体制を確立していく。 ・全職員が園児の心と体が傷つかないよう配慮した環境づくりや言葉掛け・関わりのもち方を学ぶため、園内研修を設定する。 ・園児自らが危険回避する意識を高める。(毎月の避難訓練や防災、交通安全教室の参加、また健康に関する話を定期的に振り返り実践していく) 	<ul style="list-style-type: none"> △職員の報告・連絡・相談等、共通の理解のために短時間ではあるが終礼の時間を当ててきたが、できないことが多いことがあった。 ○人権教育について参考資料の配布や園内研修を行い、園児への言葉掛けや接し方について日々、振り返りながら考える機会をもつことができた。 ○地域の駐在所による交通安全教室や防犯訓練等を行い、一人一人が自分の命は自分で守るという意識をもち、安全に過ごすよう努めた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の教育・保育計画を見直すとともに、市や学園で掲げている教育方針等を職員間で共通理解し、実践を積み上げていく。 ・久美浜学園の取組を保護者に周知し、小中一貫教育への理解を深められるよう努める。 ・園児が自然体験や環境学習を進めていく中で、SDGsが意識できるような保育を重ねる。 		